

各委員からの意見概要

- ・鑑賞割合は高く、オンライン実績活動は低いと感じた。
- ・パーシモンホールの認知度は世代を問わず認知されていると感じた。等

- ・自由意見については、建設的な意見を計画に反映していくべき。
- ・芸術に興味をもってもらうには、小学生のうちから美術館、ホール等で芸術に触れること、体験することが大切。（美術館のみならず、路上や屋外アートなどもよい経験になる。）
- ・計画の取組にあたっては、財源の確保やそれに伴う環境整備も併せて検討の必要がある。

- ・映画やコンサートなどへの関心が高く、美術館に対する関心も一定数あり、予想通りといった感想。
- ・めぐろかがやきプロジェクトの行方を鑑みての計画を検討する必要がある。

- ・ターゲット別の情報発信の検討
- ・「文化縁」×「子ども・教育・保育」に重点をおくことで、区民やまち全体の繋がりにひろがっていくのではないかと
- ・子供に直接情報が届けられ、自ら選択出来る環境を整えることで、人や社会と繋がれるようにしたい。等

- ・文化行政に対する基本的な考え方から日々の企画まで様々な情報発信が必要
- ・区の文化行政に関心の高い方々は、特に目黒区美術館のあり方に関心を持っている。
- ・若年層は地域のイベントやお祭りへの興味関心が高い。自国や住む地域に誇りを持つことと、国際的な視野をもつことは対になっている。

- ・目黒区民の若い世代は、芸術活動を表現しようとする意欲が高いことから、表現する活動場所の情報提供などがあれば、さらに若い世代の芸術表現への意欲がさらに向上すると考えられる。

- ・鑑賞する傾向が高い割に、芸術文化に触れる機会は低いと感じている。高いハードルではなく、身近なところでも芸術文化を感じることでできる情操教育が必要では。
- ・実践活動に対し消極的なことが気になった。体を動かして初めて気が付くこともある。
- ・学校教育、生涯学習等が大事。芸術文化に力が入った教育は、これからの人と違ったアイディアを求められる社会には良いのでは。等

・地域差よりも年齢差のほうが著しい。全年齢にいき渡る施策なのか年齢層を重視するのか方向性が必要では。

・地域の歴史的建物・文化財の見学が少数であることが残念。土地の歴史を探訪する（知る）ことは、住民が愛着や敬意を持つことにつながるのではないか。こうした観点を育むことで、芸術に対する思索的な考えにつながるのではないか。

・情報の入手が中々できず、どのようなイベントや行事が行われているかがわからない方が多い印象

・地域活性化へ繋げていくために、芸術や文化と関心の高い音楽や演劇を上手く織り交ぜたイベント開催や、地域コミュニティーを活かした宣伝活動が必要

年代・地域・男女別層化の同数抽出に対し、すべてをまとめて区全体の傾向と捉えるのは無理がある。せめて、各層化に対し重みづけが必要ではないか。（⇒対応済み）

オンラインとリアルの鑑賞・実践それぞれに対し、クロス集計を実施し関係性を探ることで、施策づくりのヒントが得られるのではないか。（⇒一部対応済み）